

関ヶ谷市民の森愛護会

(平成十八年度第三回役員会決定事項等)

平成18年9月4日

花壇雑感

* 「いこいの広場」のパンジー

「いこいの広場」の花壇も三度目の夏を迎えたが、今夏は過去二回の経験から、見た目に美しく手もかからず値も張らない苗を日高リーダーが選ばれ、デザインは部員が考え、夏の花壇を美しく飾っている。9月に入り早くもパンジーの種まきだ。

パンジーは、色が多彩で11月下旬から5月初旬までと半年以上も咲き続け、苗の定植後余り世話が要らない。9月初旬、部員5～6人が発芽に必要な用土と種苗箱と種子を日高リーダーから受け取り各自自宅へ持ち帰ってその日のうちに蒔く。発芽させる場所、発芽後徒長にならぬよう出芽した芽を陽に当てるタイミングなどに工夫がいる。部員はこれまでに二度経験していて苦労ばなしも楽しい。本葉が出だした頃苗のすべてを日高さんにお預かり願ひフレームで育てて戴く。葉の大きさも数も増し苗がしっかりしてきたころ部員が集まり一株ずつポットに苗をいれる。この後も日高さんの温室で花をつけるまで管理して戴く。このように部員の作業は全作業の半分にも満たず肝心なところは日高さんまかせである。11月下旬、日高さんの車に積まれて「いこいの広場」に運ばれて来る開花したパンジーとの再会ほど嬉しいときはない。この美しいパンジーを自分たちが育てたという喜びは花が咲いている半年の間続く。開花した苗は、花壇全体の配色を考えながら植えていくのだが、春が一足早く来たかのように「いこいの広場」は華やぐ。

* 「山の手入口」の芝生とクローバー

当初は、「山の手入口」に通じる道と個人住宅の崖下との間の細長い空き地に花壇を造る計画はなかった。初めの頃は市民の森への入口の体裁を整えるため雑草を抜いていたに過ぎない。雑草を抜いて何かに活用するという目的があれば勤労意欲も湧こう。炎天下の作業にうんざりしていた時、池田さんが「抜いた後種をまいたら」とご提案下さった。空き地に適した蒔きっぱなしでよいという種子が手に入り、10月に蒔くと年内に咲く花もあり少しずつ花の数も増えてきた。

昨年一年間は雑草抜きが大半であった。雑草を抜いていくうち、雑草の中に芝生とクローバーが少しずつ点在しているのが見られたのでこれらは抜かず残すよう心掛けた。そして迎えた今年の春、この二種類の植物が私を大変喜ばせてくれた。

芝生は勢力争いの相手である雑草がないと広がっていくもので、春には通路の十分の一以上には増えていた。現在は雑草も混じってはいるものの更に広がりを見せている。「芝生の絨毯を踏みながら森へ入る」というのが私の夢である。

昨春植えた10株ほどの芝桜が今春ピンクの花をつけた。その芝桜の周りを抜かずに置いたクローバーが囲んでなんとも愛らしい赤に近い桃色の花が密生して咲いたのだ。どんどん広がって芝桜の何倍にもわたって咲く。4月の中頃、二人のご婦人がこのクローバーの花の前を通りかかり咲く花の姿に感激して何枚かの写真に撮っていった。私は、これを見て、自然の花の美しさがわかる人に会えて大変嬉しかった。人の手を借りず自然に咲く花は園芸活動で咲かせる花と異なり健気で力強い。

こんな形で除草の労苦が報われるとは想像もしなかったが、5月には「昼咲き月見草」も同じように広く増え空地の彼方此方に多くの花をつけた。私の蒔いた花から出来たこぼれ種から咲く花もある。

油断するとあっという間に雑草が我が物顔にはびこる。無理をせず自然に咲く花の力も借りて、「山の手入口」の環境を良くするよう微力ながらお手伝いしたい。

(18.9.1. 宮本(久))

以下は、平成18年9月2日の「定例役員会」における決定事項の連絡です。

[I] 今後の活動予定

- 9月 9日(土) 公式活動日(刈草の整理、金木犀剪定、炭焼準備等)
24日(日) 公式活動日(杉と竹の間伐、炭焼準備等)
- 10月 14日(土) 公式活動日(杉と竹の間伐等)
22日(日) 公式活動日(植樹予定地の間伐材の整理、草刈等)
- 11月 11日(土) 公式活動日(同 上)
26日(日) 公式活動日(同 上)

(注) 年度内は、間伐、植樹準備、植樹等の作業が立て込むため、活動日は全て「公式活動日」とし、作業後「茶話会」を行う。

[II] 今後のパトロール予定

9月10日(日)	澤 邦彦	鹿谷 元良
17日(日)	篠原 英男	鈴木 勲
24日(日)	惣谷 実	戸田 斎
10月 1日(日)	立川 成江	外山カオル
8日(日)	徳岡 正彦	中村 清一
15日(日)	入部 信寿	平野 利治
22日(日)	野路美智恵	真鍋とも子
29日(日)	橋本 順二	橋本 弘子
11月 5日(日)	日高 清之	星野 洋
12日(日)	戸次 鎮治	戸次 明子
19日(日)	松苗 留吉	松本 哲朗
26日(日)	松原 勉	梁瀬 勉

(注) パトロール結果は、必ず、鹿谷副会長宛ご報告下さい。

電話かファックスによる場合：電話番号

メールによる場合：アドレス

【Ⅲ】「ほたるの飛ぶ森プロジェクト」の立ち上げ

「ほたる復活クラブ」の中にあらたに「ほたるの飛ぶ森プロジェクト」を立ち上げることを決定した。行政との面識が豊かな篠原会員をプロジェクト・リーダーに迎え、これに鈴木会長、平野クラブ・リーダー、吉田テクニカル・アドバイザー等ほたるに詳しい数人を加えたグループを核として、平成20年夏の飛翔を目指し、このプロジェクトの実現に集中的に取り組むことを決意した。

なお、上記プロジェクトの概要は次の通り。

- ① 「いこいの広場」奥の水源周辺に「放水用水池」掘削、新設する
- ② 水源から山沿いに発する20m程のU字溝を擁壁側に移設する
- ③ 上記用水池から山沿いに広場近くに至るまでの長さ50m程の水路（せせらぎ）を新設する
- ④ 関東学院側擁壁と既存の大水路との間の空き地に「平家ほたる池」を掘削、新設する
- ⑤ 幼虫の飼育は今年から、幼虫の放流は来年から、ほたる鑑賞は平成20年夏からを目途とする など

今後、ほたるの飼育で有名な「大正中学のほたる小屋」等の見学、クラブ員有志による幼虫飼育とそのための講習会、「いこいの広場」奥での用水池やほたる池、せせらぎ等の掘削作業などを企画実行する（具体的スケジュールは後日改めて連絡する）。

目下、クラブ員は、平野、鈴木、鹿谷、外山、戸次（鎮）、橋本（順）、松本、宮本（英）、吉田、篠原、徳岡、門田、宮本（久）の13名ですが、このほたる復活プロジェクトにご関心のあるクラブ未加入会員は、是非、この機会に「ほたる復活クラブ」への入会を検討下さい（連絡先：鈴木、平野、宮本）。

（注）「ほたる飛ぶ森プロジェクト」を立ち上げるまでの主な経緯

06. 3. 8. 釜利谷南小学校におけるほたる復活活動の新6年生への引き継ぎ。
06. 6. 23. 鈴木会長の依頼による「丸茂ほたるの会会長」の新6年生への講演。
06. 8. 16. 釜利谷南小学校との係わりにおける「ほたる復活クラブ」活動の今後の在り方について、有志によるブレーン・ストーミング（発起会）。
06. 8. 27. 吉田会員作成の「ほたるの飛ぶ森イメージ図」に基づく二度目のブレーン・ストーミング（提案準備会）。結果、原案を了承し、行政の協力と近隣自治会長等の支援の必要性を確認。
06. 8. 29. 行政（環境創造局・南部公園緑地事務所・金沢土木事務所から6名）への原案説明とその現地視察。鈴木会長等から行政への協力要請。

[IV] その他事業等の進捗状況

(イ) 炭焼事業

「山の手夏祭り」への初出荷を目指したが、関係者多忙のため作業に遅れを生じ初出荷は果たせなかった。しかし、今回の役員会の席上、関係者のスケジュール調整により次の日程で初火入れが举行されることになった。

- | |
|-------------------------------------|
| ① 9月16日(土) 午前9時から半日余：炭材の窯詰め等準備作業の実施 |
| ② 9月30日(土) 午前7時から丸一日：火入れ作業の実施と窯のお守り |

鈴木会長ほか、澤、平野両リーダー、戸次監事、池田相談役などが中心となって実施するが、炭焼きを経験されたい会員は是非ご参加、ご助力願いたい。

(ロ) 植林事業

「植付けの時期」は、来年2月頃の寒冷期に実施する。樹種は1.5～2mの梅の木。10月には苗木の発注が必要となる。単価1,500～2,000円の梅の木50本と見て本年度は10万円程度の予算が必要。「植樹対象地区」としては、先ず、山の手入り口から散策路を上がった竹林の先の右側（鈴木会長宅および山の手家庭菜園と散策路との間）あたりからスタートする。

「いこいの広場」の枯れたヒマラヤザクラ2本を植樹しなおす必要がある。

(ハ) 園芸クラブ

前文「花壇雑感」を参照。なお、今後の予定としては、9月初めパンジーの種子を蒔き、開花させた後11月中頃花壇へ移植。同時に葉牡丹も移植する。

(ニ) 木工クラブ

7月23日開催の「山の手自治会夏祭り」に「コースター作り」を出店した。

[V] 次回定例役員会

次回定例役員会は、11月4日（奇数月の第一土曜日）午後7時から、「山の手自治会館」において開催する。役員は万障お繰り合わせの上出席下さい。

関ヶ谷市民の森愛護会会長 鈴木 勲

（文責 総務担当 宮本 英利）